

タイトル	送る言葉
著者	安酸, 敏眞; YASUKATA, Toshimasa
引用	北海学園大学人文論集(60): 15-16
発行日	2016-03-31

# 送る言葉

安 酸 敏 眞

敬愛する常見信代先生がこの3月で本学をご退職になります。英米文化学科の教員を代表して、ひとこと感謝と饒<sup>はなむけ</sup>の言葉を述べたいと思います。

常見信代先生は、わたしが本学に着任した12年前には、すでに学科の実質的な中心として存在感を示しておられました。より古い先生方や年配の先生方も多くいらっしゃいましたが、常見先生ほど熱心に学生指導をし、学科の充実のために心を砕いておられる方はおられなかったように思います。当初はお互いに遠慮ないし誤解があって、むしろ疎遠でしたが、わたしが学部長をしているとき、さらに図書館長になってから、いろいろな助言や協力をして下さり、今では学科内で最も信頼し合う関係になりました。先生の独特の魅力は、あねご肌的なところと育ちの良さからくる気品でしょうか。実務能力にたけ、学生指導に熱心で、研究スタイルは堅実ときていますので、すべての面で一目置かざるを得ない同僚でした。

常見先生は、北海道大学文学部助手、北海道女子短期大学助教授・教授、札幌国際大学短期大学部教授、札幌国際大学人文・社会学部教授を経て、1999年4月に北海学園大学人文学部ならびに大学院文学研究科教授として着任されました。2006年4月には図書館長に就任され、2010年3月まで2期4年間にわたってその重責を果たされました。

常見先生のご専門は西洋史学ですが、北海道大学文学部在籍中から中世イギリス史の分野の研究に精力的に取り組まれ、卒業論文「中世後期のレスターシャーにおける農業経営」はその秀逸さが評価されて、早くも『北大史学』12号に掲載されています。爾来40年以上にわたって中世のスコットランドとイングランドを研究テーマとしてこられました。この間ご家庭の事情で15年ほど研究の中断を余儀なくされたものの、逆境の中でも挫ける

ことなく初志を貫徹して、今日まで着実にその研究成果を積み上げてこられました。近々そのライフワークが、単著『スコットランド・ネイションの成立』（仮題）と編著『ブリテン諸島教会史——改宗から12世紀教会改革まで』として、上梓される運びであると同っています。これらは難解な一次史料の読解と該博な研究史の知識とに基づく研究成果であって、わが国の学界に大きな寄与をなすこと請け合いです。

教育の面では、学部・大学院でイギリス史を中心に多くの科目を担当され、つねにその中心メンバーとして、学生・院生の指導に情熱を注いでこられました。とくに大学院修士課程の設置に際して、その準備委員として傑出した働きをされました。

学内委員としては、幅広い分野の委員を歴任してこられました。とくに図書館長として大きな足跡を残されました。数年後にその跡を継いだ自分としても、多くの点でお手本とすることのできる、実に素晴らしい図書館長だったと思います。

学会活動としては、史学会、西洋史学会、中世学会、北大史学会、日本服飾学会（平成11-16年度理事）、日本アイルランド協会（平成5-18年度理事）、日本ケルト学会、中世ブリテン史研究会（平成20年～現在代表）、Haskins Society、およびHaskins Society Japanに所属され、それぞれの学会において重責を果たしてきておられます。

このような常見先生とお別れするのは、とても名残惜しいのですが、今後とも末永くご健在であられ、学部・学科・大学院に対してご指導ご鞭撻くださることを念じています。